

桜蔭俳話会 七月句会(第三六七回)

平成三十年七月二十九日(日)

会場・旭区民文化センター(サンハート)

- 3点①星涼し地球に熱の溜まりあり 明美  
3点①蔵町の夕べ朱を足す凌霄花 才美  
3点 唐突に夏台風のへそ曲り 守  
3点 点滴の歌ふリズムや夏の雲 かほる  
3点 蚊遣香だあれも来ない車夫溜まり 才美  
2点①水ようかん幸せそうに夫の嘘 才美  
2点①熱帯夜臍を曝して目覚めけり 明美  
2点 蚊を打てり手加減なしに夫の頬 友子  
2点 蝸牛今日は何して遊ぼうか 守  
2点 採血の細き血管汗ばみぬ かほる  
1点①羅をたためば母の明治かな 幸  
1点 衝動買ひ風に揺れをり小判草 ヤエ子  
1点 すれ違ひざまに山の香夏薊 才美  
1点 緑蔭のうたた寝覚めてつづきの詩 才美  
1点 迷ひたる山路は遠しほととぎす 友子  
1点 化粧濃き子の目鋭し凌霄花 ヤエ子  
1点 生も死もほんの偶然炎天下 守  
1点 枝豆に一振りモンゴル文字の塩 幸  
1点 浮遊するたましひの数凌霄花 守  
1点 風鈴に寄り添ふやうに工事音 明美  
1点 最後かと思ふ甚平袖通す 守  
1点 イヤリンググリーンリン鳴らし蚊を払ひ 才美  
1点 夏帯や背筋伸びたる媼往く 眞壽  
1点 音失せし大暑の町を抜けにけり 守  
1点 古葉下がる一樹に余る蝉時雨 明美  
1点 草笛は男のテネシーワルツかな 幸  
1点 小宇宙をさまよふ夢やハンモック 友子  
1点 もう駄目だ言いつつ生きる闇螢 眞壽  
1点 絵を描く指の出てをり夏手袋 ヤエ子

※

手のひらへ青きカプセル岩清水 守

泣きじゃくる子にやぶ蚊刺し兄タツクル

太陽の虜の一つヨット来る  
幸 守 幸

耳打ちのように蚊が鳴き昼寝覚

幸

店ばかりの誕生カード八月尽

ヤエ子

ナイアガラ瀑布の裏も濡れに濡れ

眞壽

水着着る幼大勢遠ざかる

ヤエ子

かき氷被災者達に届けたし

直子

めくるめくる人の世生きる走馬燈

眞壽

大井夫人眠る地深き夏木立

幸

(大井夫人は武田信玄の夫人)

逝く時はあらかしこ水中花

才美

炎昼や栄養ドリンク待つたなし

友子

梅雨時は洞窟へ入ると危険なり

直子

虫干しをする物もなし身の廻り

眞壽

工事人滂沱の汗や土の吸ふ

ヤエ子

水の星ひと揺れさせて山車起てり

才美

浜木綿や路地に名残の芝居茶屋

友子

今年こそ土用丑の日食べに行こ

直子

夏帽子薄毛隠しにチョンと載せ

眞壽

猛暑日や見舞ひの娘横になる

かほる

ペディキュアのブループールに映えるなり

ヤエ子

海の香に誘われ砂は砂日傘

直子

縄文展置き忘れたる白日傘

才美

ダイエットに食すはつるり心天

友子

陽の光浴びるパソコン日傘さす

眞壽

髪洗ふココナッツ油のやさしき香

ヤエ子

入院やすべてキャンセルミニトマト

かほる

生誕地に見上げるビルや谷崎忌

友子

百日紅豪雨の地にも紅色に

直子

森の中五右衛門風呂や誘蛾燈

ヤエ子

あし跡の真直ぐ海へ雲の峰

才美

親ゆずりの恥ずかしがり屋さくらんぼ

友子

露草や古の青春風にゆれ

直子

宿題や大事な苗に蚊遣焚く

眞壽

蚊の声の少し弱まる夜明けかな

守

花莫蔭や陰を求めてあちこちへ

ヤエ子

桜桃や姪結婚の招待状

かほる

点滴に生かされてをり冷房機

守

蚊の影の奇襲のごとく腕の上

明美

真夜中のナースコールや蚊のをりて

かほる

少年の日の片思ひ草いきれ

友子

かなかなと台風一過に蝉の声

直子

(欠席投句 古野明美、恩田才美、稲葉幸、松浦かほる)

「事務局からお知らせ」

○第一三〇回通信句会 作品募集

夏の季語を用いた三句。締切りは、八月七日(火)。

すでにお送りしてある葉書(六月句会のまとめと

一緒に送付)でお送りください。

○八月は、句会は休みです。

○九月句会

九月二十三日(日)、午後一時から、旭区民文化セ

ンター(サンハート)で行います。兼題は「爽か」。

なお、当日、旭区俳句展へ出展の短冊と短冊掛を

ご持参ください。

○十月句会

十月二十七日(土)、吟行します。句会場は、横浜

市歴史博物館会議室。詳細は、追ってお知らせし  
ます。